

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会) : 2008.6.6~7(北海道大学)
 企画論文部門, 若手研究者論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名 : 地域 I T S における情報提供の取組み	
日付 : 6 月 7 日 (土)曜日, セッション時間 : 13 : 00 ~ 14 : 30	
オーガナイザー・司会者名(所属) : 加治屋 安彦 ((独) 土木研究所 寒地土木研究所)	
討 議 内 容	セッション全体 : 各論文の発表毎に、質疑を行った。質疑の内容は以下のとおり。
	(245) 発表者名 (所属) : 福田 正輝 (金沢大学大学院) パワーポイントを用いた発表の後、以下の質疑があった。 質問 1 : 今回使用した無線の周波数はいくらか? 回答 1 : 50~60Hz ぐらいだったと思う。 質問 2 : 救急医療では、搬送先探しで苦労していると思うが・・・ 回答 2 : 今回は 3 次救急医療機関の場合のみで集計・分析しているので、今後 2 次、1 次へと議論を深めて行きたい。
	(246) 発表者名 (所属) : 塚田 悟之 (日産自動車(株)) パワーポイントを用いた発表を行った。 パソコン~プロジェクター間の接続で問題が生じ、質疑にあてる時間がなくなってしまった。
	(247) 発表者名 (所属) : 萩原 亨 (北海道大学大学院) パワーポイントを用いた発表の後、以下の質疑があった。 質問 1 : 視程計でなく、CCTV を使用している理由は何か。 回答 1 : 視程計は必ずしも設置数が多くない。CCTV は既に全道で 100 箇所以上設置されているため、費用面で有利と考えた。 質問 2 : 一般ドライバーへのアンケートと同じものを道路管理者には行っていないのか? 回答 2 : 道路管理者にも同じようアンケートを行っている。今回は、使用する人の生の意見を確認したかったため、一般ドライバー分のアンケートの解析のみを行った。

(248) 発表者名 (所属) : 高橋 尚人 ((独) 土木研究所 寒地土木研究所)

パワーポイントを用いた発表の後、以下の質疑があった。

質問 1 : 今回の成果に(246)の研究でのプローブ情報や気象協会のデータを融合することにより、新たなビジネスモデルの提案とかを行えないか？

回答 1 : 道路管理者にとって、道路の凍結等のデータは取り扱いが難しい。まずは、道路管理者が道路の維持管理の高度化に使用していくことが順当でビジネスモデルの提案まではなかなか至っていない。(246)の研究のプローブデータをご提供いただき、当方のデータと組み合わせて検討をすすめたい。

(249) 発表者名 (所属) : 水野 隆二 (日本大学大学院)

パワーポイントを用いた発表の後、以下の質疑があった。

質問 1 : 例えば 8 時台の電車なら 20 数本ぐらゐの本数があるが、利用者は特定の便に乗ろうとしているのか？

回答 1 : ある程度、自分の希望する便や前後の便に乗ることが多い。

質問 2 : 乗降センサーは、土佐電気鐵道の電車にしかついていないのか？

回答 2 : 把握している分では、土佐電気鐵道のみ。

質問 3 : 車両によって、乗車定員などの規格が違うと思う。それによって、車内混雑の目安が変化すると思うが、どのように分類しているのか？

回答 3 : 混雑予報月時刻表はリアルタイムで対応しているものではないので、今回は各車両の規格や乗車数などを平均して分類した。